

公益法人移行第3期(平成30年度) 事業報告

自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日

公益社団法人知財登録協会 (SIR)

1. 活動総括

知財戦略が協会の唱える出願から非出願へ転換され始めた環境を踏まえ、これを先導できる協会基盤作りに着実に取り組むという基本方針に沿って活動を行った。しかし、会員数並びに登録数の増加が設立当初の目標から乖離している状況が続いており、今後はこれを打開する戦略的な仕掛けが必要である。

2. 重点施策

(1) 知財に関する調査研究啓発事業 (公益目的事業: 公1)

知財に関する国民の知識・意識の向上並びに知財立国の実現に貢献するために下記活動を業務執行理事が中心になって行った。

- ① 知財啓発の一環として、『知財パラダイムシフトの発想 2018 シンポジウム』を10月16日阪大中之島センターで開催、参加170名で盛会裏に終了した。
- ② 知財経営研究会として、5月16日春季研究会を協会事務所で開催した。また生産技術振興協会知財分科会に協力する形で年3回(6/14, 7/18, 3/22)実施した。
- ③ 地方への普及啓蒙活動として、東海、中国、四国にある小規模事業者に対して知財実態調査を行い知財ブランドモデル研究への参加を促した。
- ④ 毎号3万部発行の知財情報誌『創』に理事長論文が4回掲載された。また同誌に協会登録知財の掲載(合計7件)が始まり、読者からの反応があった。
- ⑤ 知財品質向上及び活用に係る人工知能(AI)応用研究に関してソフトウェア企業等と開発検討を行った。また研究を支えるデータ収集に対する改善を図った。
- ⑥ 海外知財流通専門家との知財活用研究協業について数度にわたり会議を持った。

(2) 知財情報の登録保護活用事業 (その他事業: 他1)

公1事業には、安全性と利便性の高いシステムが必須であり本年度は下記を行った。

- ① 協会HP及び登録システムのスマホ対応、セキュリティ強化を行った。
- ② 知財ブランドモデル研究支援システム開発の一環として、知財登録情報管理システムの改善等を行った。
- ③ 会員がタイムスタンプを簡便に押せるアプリについて業者を交えて検討した。セキュリティ面から知財本体の預かりサービスは当面行わないことに決定した。

(3) 協会事業基盤確立のための特記事項

小規模事業者会員拡大(5名加入)。会員及び登録数の飛躍的拡大には戦略的な仕掛けが必要であり来期から取り組む必要がある。

3. 事業監査結果

4月3日二村監事による事業監査を受け、適正との報告があった。(資料K1)

(以上)